

名前（ ） 日づけ（ / ） できた数（ /28）

使い方 声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。**この冒頭の山は敬語**です。とくに②の「さぶらひたまひ」は**一語の中に謙譲と尊敬が同居する二方向の敬語**、⑮の「せたまは」は**最高敬語**。ここが毎年ねられます。

あらすじ=それほど身分の不高い更衣が、帝の寵愛をひとりじめする。女御たちにねたまれ、心労で病が重くなって実家に下がりがちになる。帝はいっそういとしく思い、世の語り草になるほど扱いが度をこえていった。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

① いづれの御時（おほんとき）にか、女御（にようご）・更衣（かうい）あまた② さぶらひたまひける中に、いと③ やむごとなき④ 際（きは）にはあらぬが、すぐれて⑤ 時めきたまふありけり。

はじめより我はと⑥ 思ひ上がりたまへる御方々、⑦ めざましきものに⑧ おとしめそねみたまふ。同じほど、それより⑨ 下臈（げらふ）の更衣たちは、まして⑩ やすからず。

朝夕の宮仕へにつけても、人の心をのみ動かし、⑪ 恨みを負ふ積もりにやありけむ、いと⑫ 篤（あつ）しくなりゆき、もの心細げに⑬ 里がちなるを、いよいよ飽かずあはれなるものに⑭ 思ほして、人のそしりをも⑮ え憚（はばか）らせたまはず、世のためしにもなりぬべき御もてなしなり。

語注 御時＝御代。天皇の治世。女御・更衣＝帝に仕える后妃。女御のほうが上位。さぶらふ＝お仕える（謙譲語）。やむごとなし＝高貴だ・格別だ。際＝身分。時めく＝寵愛を受けて栄える。思ひ上がる＝自負する。めざまし＝目にあまる・気にくわない。おとしむ＝見下す。そねむ＝ねたま。下臈＝身分の低い者。やすからず＝心が穏やかでない。篤し＝病気が重い。里がち＝実家に下がりがち。飽かず＝いくら見ても飽き足りない。思ほす＝「思ふ」の尊敬語。そしり＝非難。憚る＝遠慮する・気にする。ためし＝先例・語り草。御もてなし＝お扱い。

A 語句の意味と読み（1～7）

- (1) ①の「御時」の読みと意味を書け。
- (2) ③「やむことなき」の意味を書け。
- (3) ⑤「時めき」の意味を書け。
- (4) ⑦「めざましき」のここでの意味を書け。
- (5) ⑨「下臈（げらふ）」の読みと意味を書け。
- (6) ⑩「やすからず」の意味を書け。
- (7) ⑫「篤しく」と⑬「里がちなる」の意味をそれぞれ書け。

B 文法（8～12） ※結びの省略・ず・けむ・えゝず・ぬべし

- (8) ①の「か」の下に省略されている語を補い、その理由も書け。
- (9) ④「際（きは）にはあらぬ」の「ぬ」は何の助動詞の何形か。
- (10) ⑪の「や」と「けむ」を、それぞれ文法的に説明せよ。
- (11) ⑮の「えゝず」は、どのような意味を表すか。
- (12) 「世のためしにもなりぬべき」の「ぬ」「べき」を、それぞれ文法的に説明せよ。

C 敬語と敬意の方向 (13～17) ★この冒頭の山

(13) ②の敬語を二つに分け、それぞれ種類と、誰から誰への敬意を書け。

(14) ⑥の「たまへ」の敬語の種類と、誰から誰への敬意を書け。

(15) ⑧の「たまふ」の敬語の種類と、誰から誰への敬意を書け。

(16) ⑭「思ほして」は「思ふ」をどう言いかえた語か。種類と敬意の方向も書け。

(17) ⑮の「せたまは」は何と呼ばれる言い方か。誰への敬意かも書け。

D 口語訳 (18～21)

(18) ①「いづれの御時にか」(省略されている語を補って訳すこと)

(19) ⑦・⑧「めざましきものにおとしめそねみたまふ」

(20) ⑫・⑬を含む「いと篤しくなりゆき、もの心細げに里がちなるを」

(21) ⑮を含む「人のそしりをもえ憚らせたまはず」

E 内容・記述 (22～25)

(22) ③・④から、桐壺更衣はどのような身分の女性だと分かるか。書け。

(23) 桐壺更衣が女御・更衣たちから見下され、ねたまれたのはなぜか。また、ねたまんだのは具体的にどのような人々か。本文の語句を使って書け。

(24) 更衣が⑬「里がちなる」ようになったのはなぜか。また、それに対して帝の気持ちはどう変化したか。書け。

(25) 「世のためしにもなりぬべき御もてなしなり」とは、どういうことか。書け。

F 文学史 (26～28)

(26) 『源氏物語』の作者名・成立したおおよその時代・全部で何帖から成るかを書け。

(27) 『源氏物語』のような、伝説や空想をもとにつくられた物語を何というか。

(28) その系譜で「物語の祖（現存する日本最古の物語）」とされる作品名を書け。

【テスト直前チェック】この三つ ①「さぶらひたまひ」は二方向の敬語。「さぶらひ」＝謙譲（帝へ）／「たまひ」＝尊敬（女御・更衣へ）。誰の動作かを先に決めると向きは自動で決まります。②「せたまは」は最高敬語。帝だから使われています。③「めざまし」＝氣にくない。現代語の「目ざましい（すばらしい）」ではありません。